



モーリス・ブロック氏述  
佛蘭西施政詩典抄譯

九尋爲深洋三美譯



414  
A 3109



モトリリスブロッタ氏編

西施政詩曲高亭子會後院之部抄撰

高亭子會後院之事

第一回 高亭子會後院ハ政府ノ傍ニ在テ高亭子

ノ事ニツキ其職務ヲナサシカ爲メ招集セル高亭子

シテ且ツ衆庶ノ利益ノ爲メ設立セル諸會社毎

編リ代表人タルモノヲ以テ組織シタル選定ノ

一休ナリ

目錄

第一章 歴史 自第一回至第四回

第二章 設定 自第五回至第十回

第三章 組織 自第十一回至第十六回

第四章 裁判 自第十七回至第三十二回

大正十一年四月  
大隈通郵部寄贈

第一節

歴史

第三回 抑モ伊蘭西國ニ於テ高業會院ノ起リセ  
 ル原因ヲ探スルニ無記ノ古代ニ於テタルセ  
 重立タル商人等共相互一級ノ利益ヲ計ラシメ邑  
 坊會院ニ設ケタル 臨時ノ集會ヲ以テ始メトス邑坊  
 會所ハ此臨時會議ヲ常定ノ會議トナサシカケル  
 一十六百五十年十一月ニテ、決議ヲ以テ則チ高業會  
 院ヲ設テ十二名ノ委員トシ古今ノ高業會  
 情ニ係ルル代議人四員及ヒ高業ノ實地ニ係ル  
 適當ノ人八員ヲ置ケリ而シテ此會院ハ作テ盛大  
 重要ト成リタルヲ以テ政府之ヲ助力セシカケルニ

一三

假スニ權利ヲ以テセリ然而其職務ノ緊要ハ遲  
 滯ナリ會院増加ノ恩念ヲ從スニ至リ一千七百  
 年二月ノ決議ニ由テ「セル」ノ制ヲ以テ之ヲ  
 ドウシケルクニ設立セリ又一千七百一年八月三十日ノ  
 參議院ノ決議ヲ以テ此ノ如キ會院ヲリラシム  
 ルハボドゥル等ニ設立スベキヲ基定ス

第三回 夫レ此會院規律ノ如キハ一般一様ノ  
 基礎アリシニハ非ズシテ地方ノ慣習ニ從ヒ各々其  
 會議院ニ利益アリトスル所ヲ以テ自由ニ法度  
 ノ法定セシメタリ故ニ委員ノ選舉法ノ如キ  
 其員數ノ如キ後務ノ制々々ノ如キ受權者ノ  
 分限ノ如キハ其入費西立方ト同シク各々其院ニ  
 由テ相異ナレリト云凡會院ノ職制ニ至テハ

大 裁 旨

皆十同一ニシテ即チ貿易ノ利益ニ緊要ノ報告ヲ  
會計總官ニナシ又之ニ覺書ヲ送附ス此覺書ハ  
商人ニ緊要ノ見込及ヒ歎願ヲ記入スルモノニテ之ヲ  
評議セシ上送附スルモノナリ然レトモコルセイニ  
及ヒコトウニケルクノ會議院ノ職務ノ如キハ一層  
擴張セルモノニシテ其地方ニ於テハ職務ノ外ニ實  
ニニ商業ヲ管轄セリ加フルニマルセイニノ會議  
院ハコルウシノ商業上ニモ裁判權及ヒ指揮ヲ有  
シタリキ

第四回 一千七百八十九年、改革ハ商業ニ係ル  
旧来ノ審法度ハ區分モヤク盡ク之ヲ破壊シ當  
時既ニ没四四レタル十三ノ商業會議院、禁止ヲ  
人申レタリ昂チ會議院ハ一千七百九十一年八月

一四

二十七日、決議ヲ以テ消滅シ共和政治ノ第二年  
四月三日、決議ニテ漸ク再設ヲ得タリ此再設ノ  
決議書ノニ商業會議院ノ會計ニ係ハリテ未タ  
完全セザル所アリシガ一千八百六十九年九月七三日ノ  
決議及ヒ一千八百二十年七月二十三日ノ會議中ニ  
擧補セラレタル取扱方ニ由テ完全セリ且ツ此  
決議ハ尚ホ他ニ豫メ設備セル程々ノ布令追加ア  
リタレト一千八百三十二年六月十六日ノ命令ヲ  
以テ改正セルマデハ會議院施行ノ基礎  
リキ此命令モ亦一千八百四十八年六月十九日ノ決  
議ヲ以テ改正ヲ受ケ又モ一千八百五十二年八月  
三十日ノ決議ニテ改正ガナリタル一千八百五十一年  
九月三日ノ決議ニテ改良セラレタリ人々夫レ高

裁

業會院ノ法ヲ案子ニト欲セバ此等末ノ二法  
ニ據ラザルベカラス而メ又一千八百四十四年四月  
二十五日及ヒ一千八百五十年五月十八日ノ決議ヲ基  
編集シタル一千八百二十五年七月二十三日ノ會計  
法ニ係ハル會計ノ論ナルモノヲ參考スルニ

第二章

院 定

第五回 高業會院ハ施政上ノ諸規則ニ據  
リテ皇帝之ヲ設定ス

第六回 此會院ノ設之ヲ請願スルハ人  
民ニ有リトモ之ヲ設立スルニ於テハ其  
地ニ有リトモ之ヲ向テ金額ノ員存ヲ要セ  
ザルベカラザルカ故ニ(三十三回及ヒ其ノ

以下ヲ見ヨ)政府ハ請求セラルタル此設立ヲ容易ニ許  
諾セズトシテ其眞ニ公益ムルヤキヲ証スルコトヲ望  
ムナリ

第七回 會議院ヲ設立スベキ列ノ列會議院會議  
院ノ分畫中ニ入ユク或ハ一部入ルヤキ郡ノ郡會  
議、及び其ノ分畫中ノ商法裁判所ハ會議院ヲ  
新ニ設立スルノ義ニ付各々其説ヲ申呈スルニ又  
既ニ一ツノ會議院アル列ニ於テハ此會議院ニ同ク  
其見込ヲ申呈スルニ此諸申告ハ列知事之ニ集  
メテ以テ之ニ自己ノ見込ニ係ル而メ農商工部卿  
之ヲ送ル

第八回 御ハ若シ之ヲ利益アルヤキモノト認ムルトキハ  
之ヲ參議院ニ附シ參議院ノ評議ヲ受ケテ後之

ラ皇帝ニ呈ス皇帝ハ若シ之ヲ許可スルトキハ右  
會議院設立ノ決議ヲ與フ

第九回 會議院管轄ノ分畫ハ設立ノ決議ヲ

以テ定ム若シ之ヲ定メサルトキハ其州ニ他ノ商業

會議院ナキニ於テハ其州中一般ニ及ビ郡中

ニハ已ニ他ノ會議院アルモ其分畫中一般ニ及ガズ

ベシ此會議院ノ分畫ハ設立ノ後至テモ決議ヲ

以テ之ヲ改正スルヲ得

第十回 設立ノ決議ハ又會議院ノ委員ノ名數

ヲ定ム此員數ハ後日ノ決議ニ以テ常ニ改正スルベキ

ノニテ九名ニ少ナカラズ世一名ヨリ多カラザルベシ但シ

其ノ權利ニ於テ此會議院ノ委員タルベキ知事

(地方ニ由テハ或ハ權知事)ハ此數中ニ算入セズ

第三章

組立

第十一回 商業會議院ノ委員ハ選舉ヲ以テ任セラル而

委員選舉ハ其ノ分畫内ノ選舉商人ニ屬スルナリ

(見) 譯者曰ク「アタリナルコト」部ヲ見ルニ此字ノ解説アリ其畧ニ曰ク「アタリ

ヨ」アルコトナルサニトハ商法裁判所及商業會議院ノ委員ヲ指示シ又ハ

此裁判所ニ出席スルモノヲ云フト又曰ク選舉者トナルモノノ分限ハ

其人ノ家柄及公正經濟ノ公評ヨリ成ルモノナリ云ハト

第十二回 若シ一會議院ノ分畫中ニ於テ一ツ或ハ數

多ノ商法裁判所アルトキハ此裁判所ノ委員選舉

舉ノ為メ設ケタル選舉人ノ名簿ハ亦會議院

ノ委員選舉ノ為メ用サラル其分畫中ノ

郡或ハ邑ニ於テ商法裁判所ナキトキハ選舉人

ノ名簿ノ補助冊ヲ設ク此選舉人ノ名簿ハ常

ニ知事ヨリ農商工部卿ノ許諾ヲ受クルナリ

之ヲ記スベシ

第十三回 選舉會議ハ商業會議院ヲ設ク  
ル所ノ防ニ於テスベシ此選舉會議ノ上席  
タルヘキ者ハ地方ニ依リテ或ハ知事或ハ権知事或  
ハ其代理人タルベク且ツ四員ノ選舉者ヲシテ之ヲ  
補翼セシム此四名ノ選舉者中二名ハ若年者  
ヲ以テシ他ノ二名ハ年老ノ者ヲ以テスベシ又選舉  
課ハ會議中ヨリ一名ノ書記役ヲ撰任ス委員志  
願人ノ適否ノ論議ハ之ヲ長官ノ詮議ニ任セ他ハ  
都テ決議ヲナス

第十四回 選舉ニ當ルベキモノハ左ノ如シ(第一)三十歳  
以上ニシテ五年以上商業或ハ製造ヲ營ム者(第二)  
三十歳以上ニシテ以前商業或ハ製造ヲ營ム現在會議院

ノ分畫中ニ在ルモノ是ナリ此第ニ列ノモノハ決シ  
テ各院委員ノ三分ノ一ニ過ルベカラズ又教人ニテ  
一社ヲ結成セルモノハ直ニ其ノ同シ會議院  
ノ委員タルベカラズ若シ其ノ内教人選舉  
ニ當ルトキハ其最モ投票ノ數ヲキモノ尙  
人ヲ委員トナス若投票同數ノトキハ其ノ  
歳齡最モ多キモノヲ取ル

第十五回 受撰者タラシニハ佛蘭西國人  
民タルノ分限ヲ有スルハ緊要タルカ否論  
題ハ既ニ議セラレシナリコレハ政治上ノ誓  
詞ヲナスベキノ委員ノ義務ニ對シ之ヲ十  
スヘキモノト定メザルベカラザルト見ユル  
ナリ(第十九回ヲ見ルベシ)

第十六回 選挙ハ全分画内ノ爲メニ設ケタル委員志願人ノ一名簿丹ニツキテ隠密ニ投票シ出席ノ撰挙者總員ノ多数ニ據ル但第ニ回ニ撰挙者一部ノ多数ヲ以テ是レリトス

第十七回 選挙ニツキテハ必ラス一ツノ口演書ヲ認ムベシ此口演書ハ選挙者及ヒ投票者ノ員数受撰者ノ姓名歳齡職業及ヒ住所並ニ其各々受ケタル投票ノ数ヲ記載ス此口演書ハ知事ヨリ農商工部卿ニ送付セラル

第十八回 卿之ヲ閱スルノ後其ノ意見ヲ付シテ之ヲ還送ス即チ若シ法式ニ不當ノコトアルカ或ハ法ニ背ケル條件アリト認ムルトキハ其選挙ヲ取消シ更ニ又選挙人ヲ召集ス若シ亦其選挙ヲ正當ト認ムルトキハ知事ヨリテ會議院ノ設置方必書ク

第十九回 設置ハ之ノ取扱フヘキ知事自ラ或ハ其代理代之ヲ管シ委員ヨリナスヘキ誓詞ヲ受ク商業會議院ノ委員ハ誓詞ヲナスヘキモノナルヤ否ヤノ論題ハ評議セラレシマアリシカ參議院ハ一千八百五十四年四月二十二日ノ決議ヲ以テ商業會議院ハ評議ノ會院ニシテ公務ノ一部タル施政上ノ會院タルヲ証シ以テ誓詞ヲナスヘキモノト決定セリ  
誓詞ハ知事及農商工部卿ニ渡スヘキ口演書ニ記登ス此口演書ハ又會院撰挙課ノ起草法ヲモ書シテ之ヲ報告スルモノナリ  
第二十回 商業會議院ハ議長一名ヲ撰任シ場合ニ副議長ヲモ撰任ス又會計兼務ノ



書記官或ハ會計役ト登記役トヲ一名ツ撰任ス且ツ  
總撰挙者ノ多數ヲ以テ之ヲ撰ミ一年間ヲ其任  
期トス知事或ハ權知事ハ(第十回ヲ見ヨ)會議院ニ出  
席スルトキハ毎ニ上席ヲ有ス  
第二十一回 委任在職ハ六ケ年間ニシテ二ケ年毎ニ  
三分ノ一ヲ以テ交代ス一般ノ撰挙後ノ就職ハ  
二回迄ハ闌ヲ以テ之ヲ定メ其後ケハ古キ者  
ヲ以テ順席ニ就職ヲ定ム満期解任ノ者ハ何  
度ニテモ再任セラレ得  
第二十二回 委員ノ死去ニ或ハ辭職セシト  
キハ委員撰挙ノトキ委員トナルヲ得サリニ  
モノ内ニテ最モ役標多キモノヲ以テ之ニ  
代ラシム但レコレハ死去或ハ辭職セシモノ

ノ任職満期マデノトナリトス會議院ノ可認  
セル正当ノ記據ナクシテ六ケ月間招集ニ應  
セスレテ出席セサルモノハ權利上ニ於テ辭  
職セルモノト定ム

第二十三回 此終リノ處分ノ如キハ會議院  
ノ事務ニワキ委員ノ勉勵ヲ慥カムルニ必要  
ノエトタリト雖モマシ會議院ハ為メニ遠方  
ノ商人ヲ招キ寄スルエトノ易カラサルノ患  
アリ此難事ヲ醫セシタメ會議院ハ其分畫中  
ニ在テ閣議ヲ以テ之ヲ補翼スルカ或ハ唇面ヲ  
以テ其院議ヲ通報スルヲ得ヘキモノヲ委員  
ニ任スルヲ許可セラレタリ此策ハ一ハ以テ  
大益ノ通積ヲ失ハサルニメ一ハ以テ選舉者

ノ離去ナキテ慥カムルニ足ル此通報委員ハ  
其數非職委員ノ數カケル之ヲ任スルヲ得

### 第四章

#### 職制

第二十四回 商業會議院ノ職務ハ別々テ之ヲ  
二種トス即チ政府ノ傍ニ在テ商業ニ係ル  
官ノ器具トシテ之ニ屬スルモノ及ヒ衆庶ノ  
利益ヲ計ラシカ為メ商業ノ代議者トシテ  
時ニ為スハキ所ノモノ是ナリ

第二十五回 商業ニ係ル官ノ器具トシテハ會  
議院ハ製造貿易ヲ繁盛スルノ策。商業ニ係ル法律ノ  
諸部類ニツキテノ改正。橋梁類ノ建築。及ヒ港普請。大  
小河ノ航行。郵便。鑛道等ノ如キ製造貿易ニ係ル公用ノ

諸設備者亦ニ在テ茲端ニ其ノ見込ヲ政府ニ進呈  
スルノ權利ヲ有セリ

第二十六回 商業層級院ハ政府ノ請求ニ従テ

製造貿易ノ發見及ヒ其ノ便利ニツキテ其院及ヒ

日邊ヲ中教大ニ就テ商業ニ係ル法例 假令商

業層級院ノ設立ノル大<sup>他種ノ商業ニ係ル及ヒ其</sup>

運送役員及ヒ其規則。商業層級院ノ規則。海關稅目。内地

海關ノ牙際稅及ヒ商貨ノ條條。為番及ヒ公用物。

件ハルモノ等ノ諸規則。其分畫中ニ商法裁判所ヲ

設立スルヲ、銀行。市。及ヒ佛國銀行ノ支店等ノ

設立。商業ニ係ル其地方ノ公口ノ建築ノ目録

見。及ヒ製造貿易ニ係ル其地方ノ諸規則ノ見



讀ホラテ其タレニ依テ他ノ省ニ其見込  
ヲ申呈スルトキハ直ニ之ヲ農商工  
部省ニ通知セザルベカラズ  
第三十二回 商業會議院ハ之ヲ管轄スル  
所ノ省ノ許可ヲクシテ其見込書報告書或ハ通  
教書ヲ發允シ又ハ印刷スルハ源理ニ於テ禁止スル所  
タリト雖此規則ハ固守セラレズ政府モ又此規則ヨリ  
起ル所ノ妨害ヲ見ケルガ故之ヲ黙視セリ然レモ此  
黙視ハ政府ノ權利ヲ害スルヲナシト雖モ會議院  
ハ許可ナク或ハ精微ノ論議ヲ公布ニスルニ於テハ却  
テ自己ヲ害スルコトアルベシ

第五卷  
歳出入

第三十三回 商業會議院ハ一千八百五十年五  
月十八日ノ法律ヲ以テ改正セラレタル一千八  
百四十四年四月二十五日ノ法律第三十三條ニ  
指示セル其分畫内ノバタンテ（營業稅ヲ納ムル者）ニ課附  
スル金額ヲ以テ其入費ニ備フ  
第三十四回 此課附金ハ毎年會議院ニテ調ベ  
タル歳出入表ニ基キ農商工部卿ノ別段ノ決議  
ヲ以テ之ヲ取立ツ  
第三十五回 此要點ニツキ會議院ハ每年前六ヶ  
月間ニ於テ前年ノ出入精算表及ビ翌年ノ出入  
豫算表ヲ作り副書ニ通テ添ヘテ之ヲ其洲ノ知  
事ニ差出ス此精算表及ビ豫算表ハ知事ヨリ已  
ノ添書及ビ其書ト共ニ之ヲ農商工部卿ニ送

ル該卿ハ驗劑ノ上若シ改正スヘキ所アラバ之  
ヲ改正シ認オラレタル豫算表ノ一通ヲ還送ス  
其他右ノ事ニ係ルツテ經由スベキ諸法式ハ「ア  
」ル「ト」一様タリ「ア」ル「ス」ノ部ヲ見ルベシ  
第三十六回 會議院ノ歲出入ニ入ルキモノ  
ハ正サニ此用務ニ係ハル毎年及ヒ臨時ノ入費  
即チ家賃動員ノ設備金選舉課ノ入費書記役ノ  
給料等ノ如キモノニ限ルナリ  
第三十七回 貿易ノ便利ニ係ハル諸會所ヲ支  
配スル商業會議院ハ尋常ノ歲出入表ノ外ニ其  
ノ諸會所ノ歲出入表ヲ農商工部卿ニ差出シ其  
ノ許可ヲ受ケ此表ハ此會所ノ支配ヲ會議院ニ  
任シタル命令中ニ指示シタル規則ニ從テ之ヲ

調製ス

大  
歳  
首

